

ニッポンハムグループの DXの取組について

■■■ 日本ハム株式会社 IR-DAY ■■■

2022/1/14

日本ハム株式会社

執行役員 経営企画部長

藤原 寛英



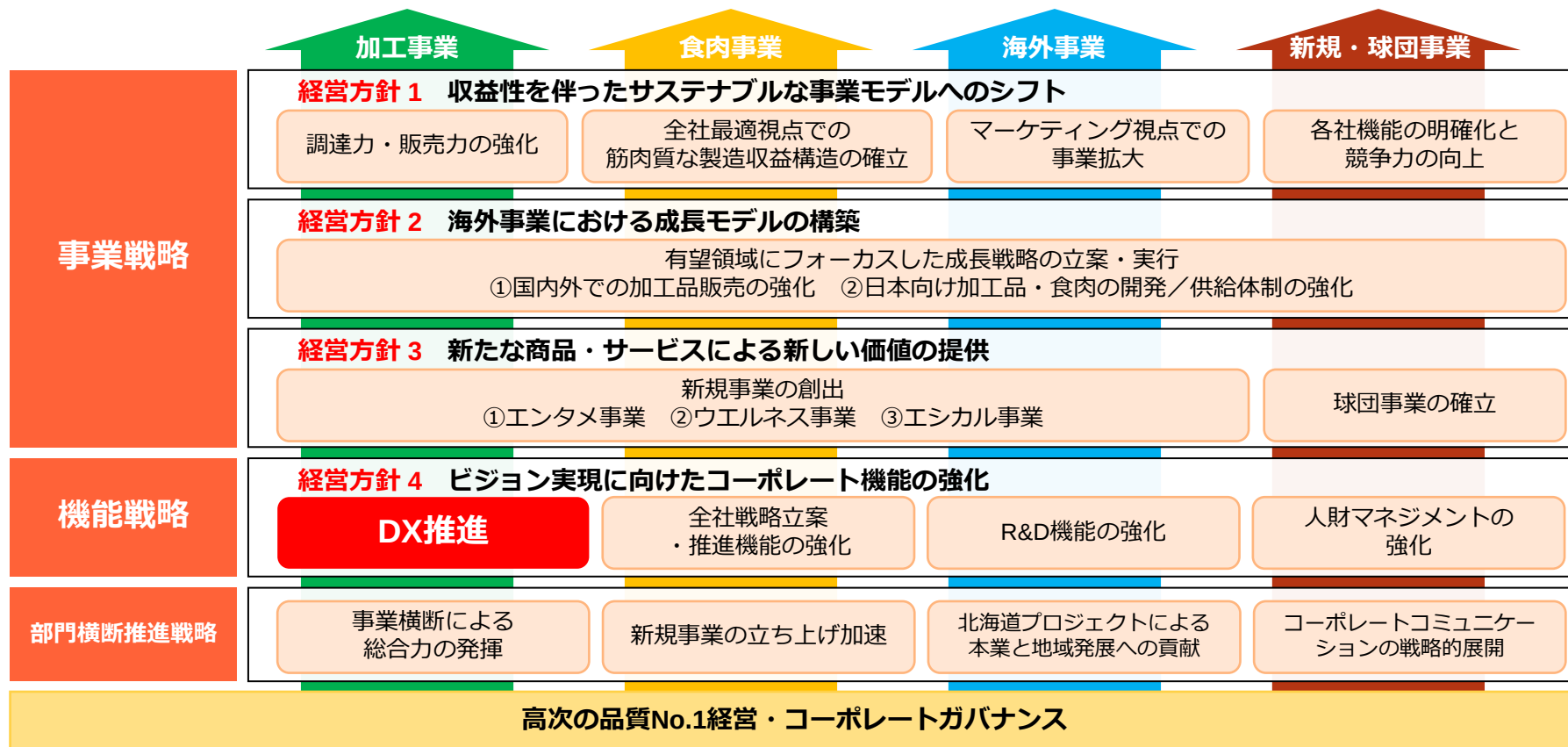
たんぱく質を、もっと自由に。

Nipponham Group Vision 2030

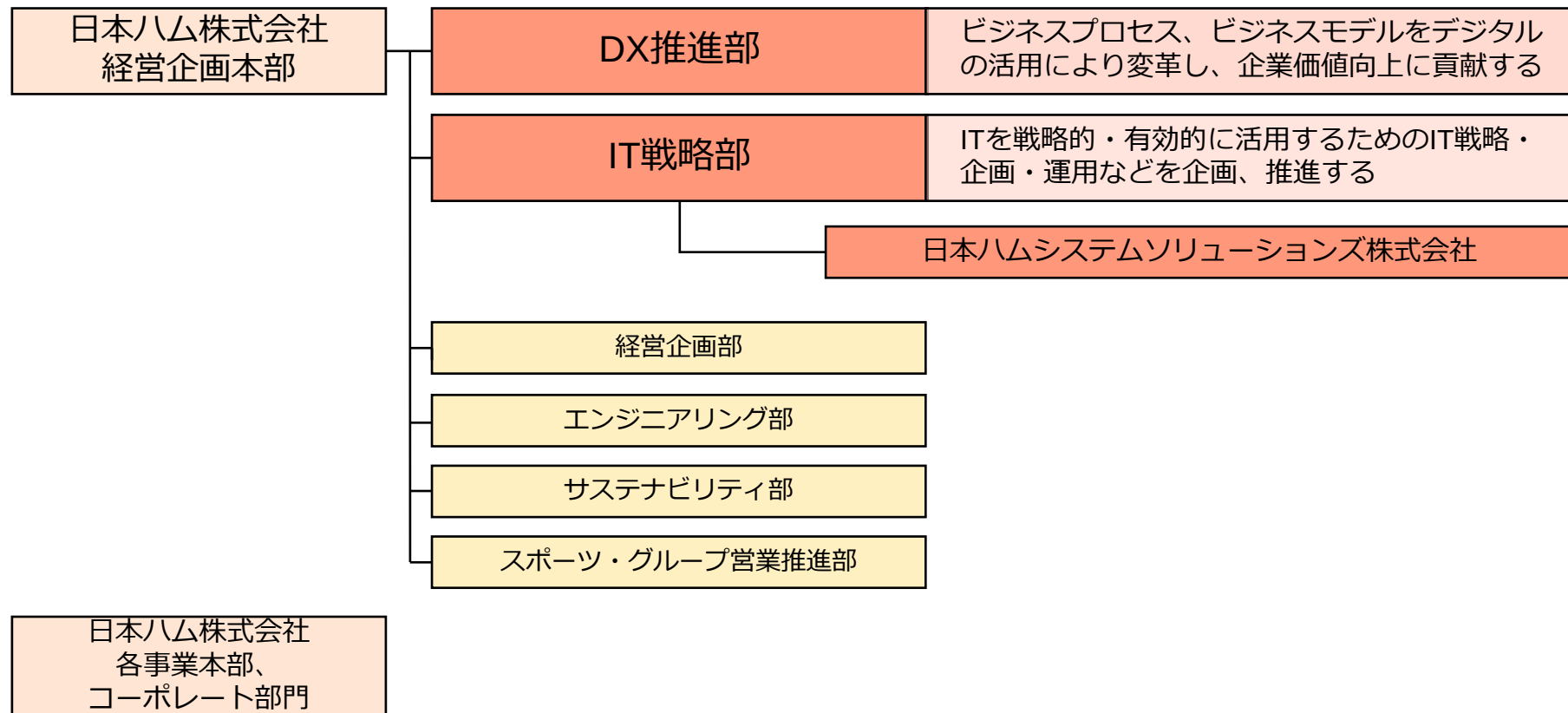
1. ニッポンハムグループ中期経営計画2023とDXの実現について
2. Connect Projectのご紹介
3. DX取組み事例のご紹介

1. ニッポンハムグループ中期経営計画2023と DXの実現について

中期経営計画2023とDXの取組の位置づけ



DX推進の組織体制





グループ基幹システムの統合・再構築 (Connect Project)

グループ連携、事業利益の最大化

- 素早い意思決定
- 生産性の向上
- 変化、変革への対応

デジタルを活用したビジネスモデル への変革と収益力向上

ビッグデータ、AIの活用

経営、営業、商品開発、マーケティングにおける活用基盤の構築

- 新たなビジネスの創出
- 業務の変革

モバイル／クラウドファースト

テレワーク、モバイルワークへの対応
インフラ、ネットワークの再構築

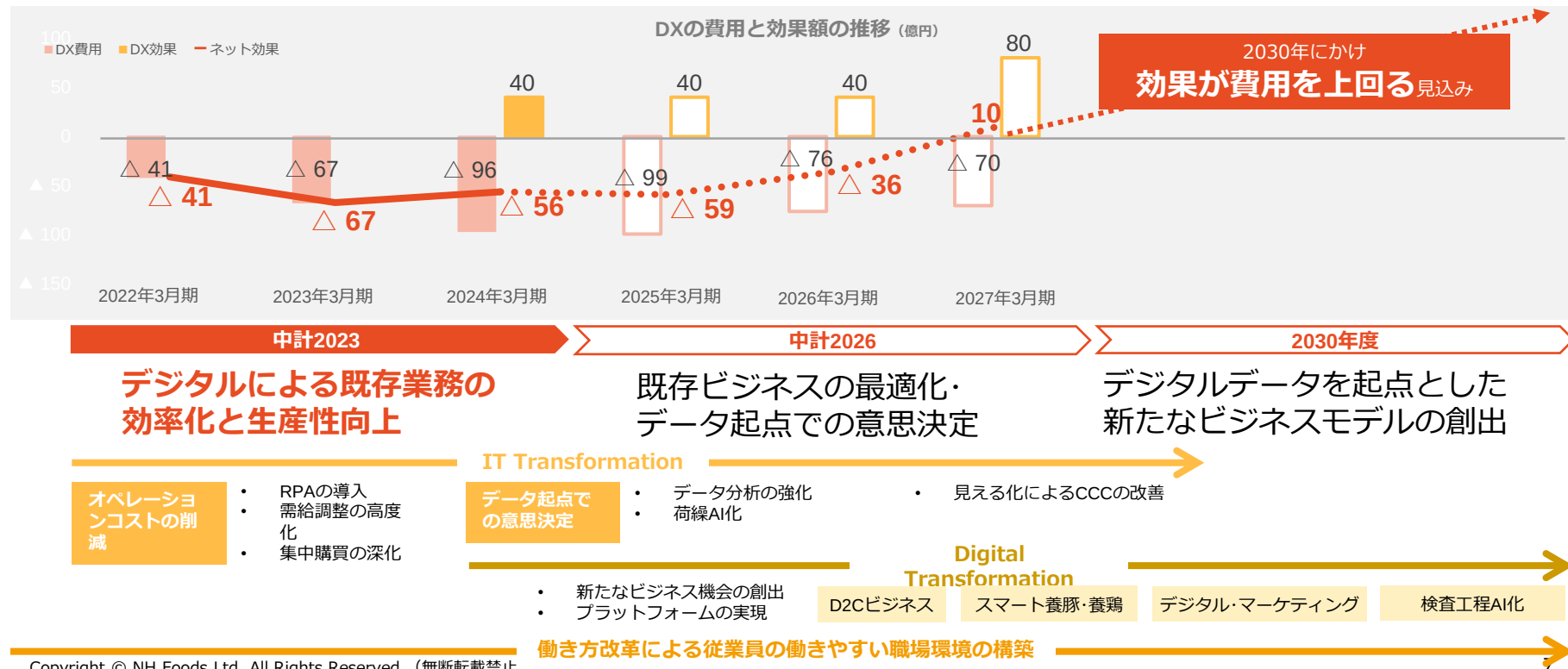
- 労働生産性の向上
- イノベーション力の強化

ニッポンハムグループDX取り組みのイメージ



経営方針DXを活用したビジネスモデルの変革

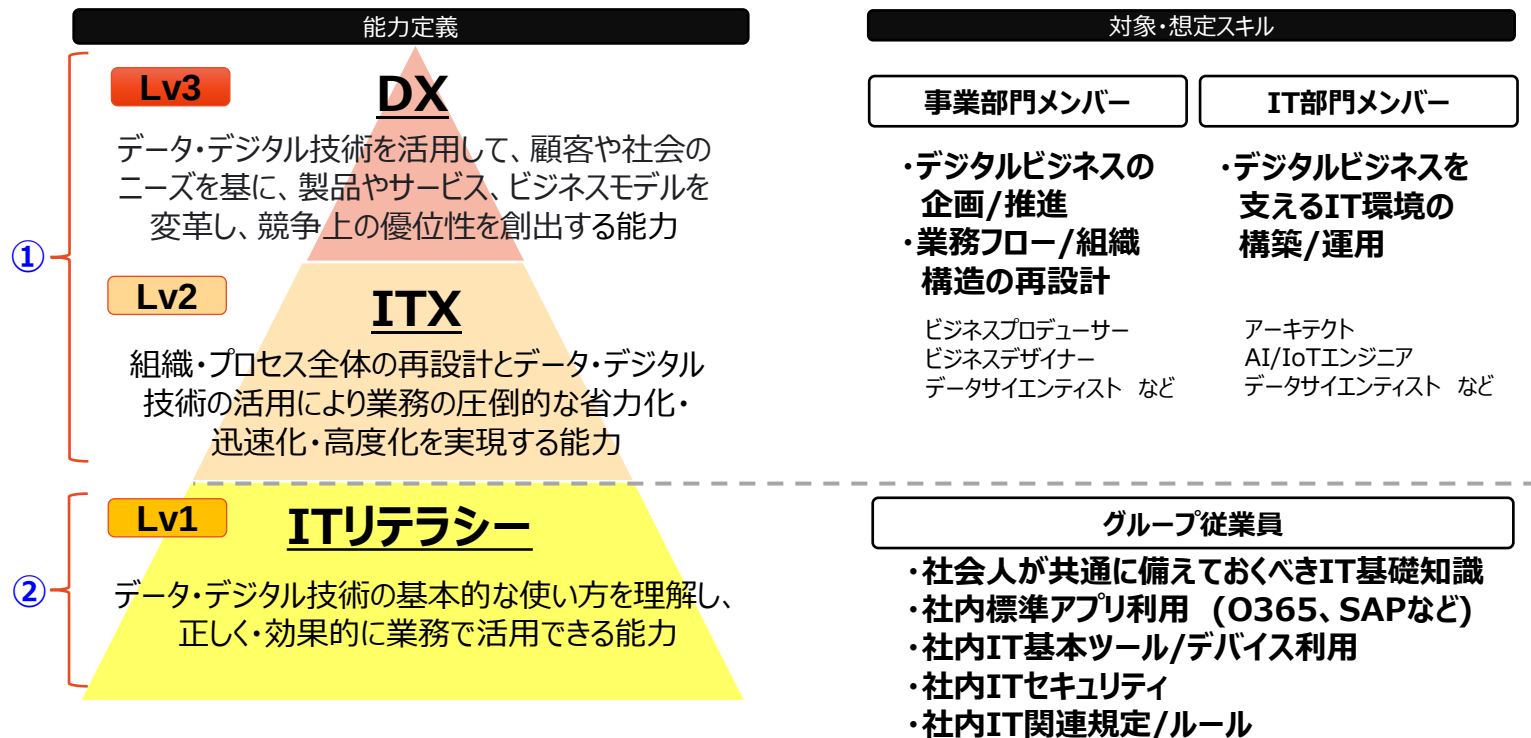
DXを活用した既存事業の効率化・生産性の向上および新規事業の立ち上げを加速
10年後には食のサービス・顧客価値についてデジタルを通じたビジネスモデルを目指す



変化するIT環境に適応し、効果を創出するために各領域を応じたITスキルの育成を図る。

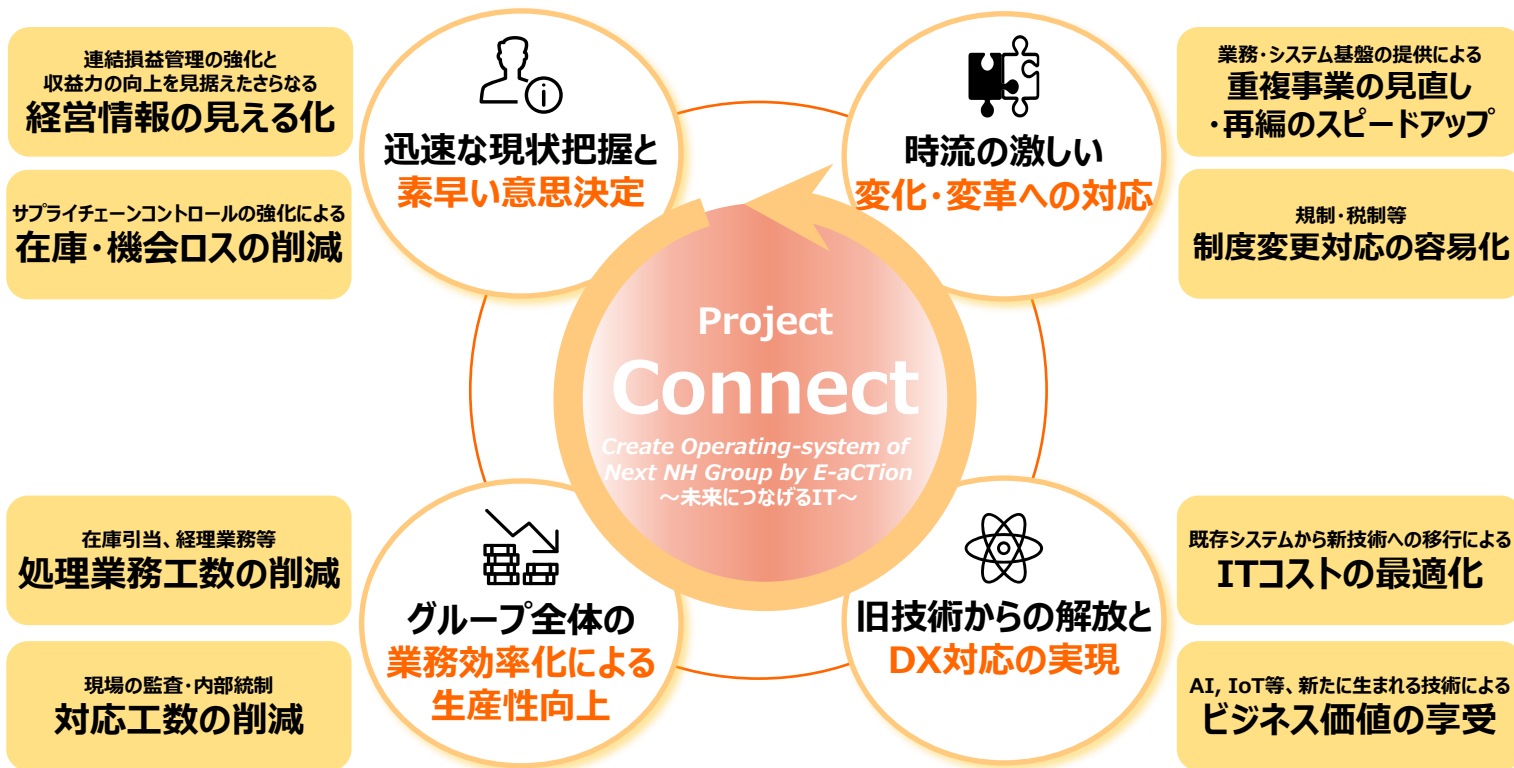
①ニッポンハムグループDX/ITXを実現する人財定義と育成・獲得計画策定

②IT効果を創出するためのITリテラシー向上の施策実施



2. Connect Projectのご紹介

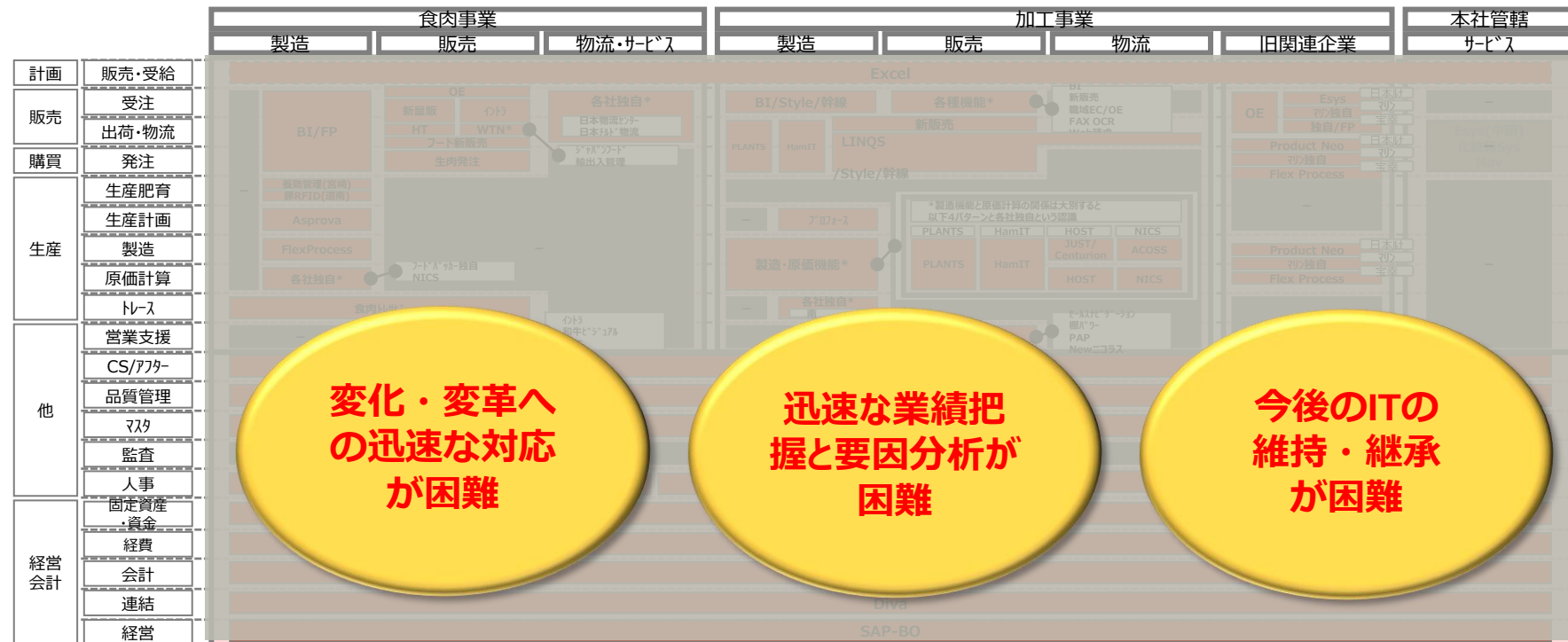
Connect Projectの背景と目的



ニッポンハムグループの今後10～20年の長期的な成長を支える
「共通の業務・システム基盤を固める」為の活動

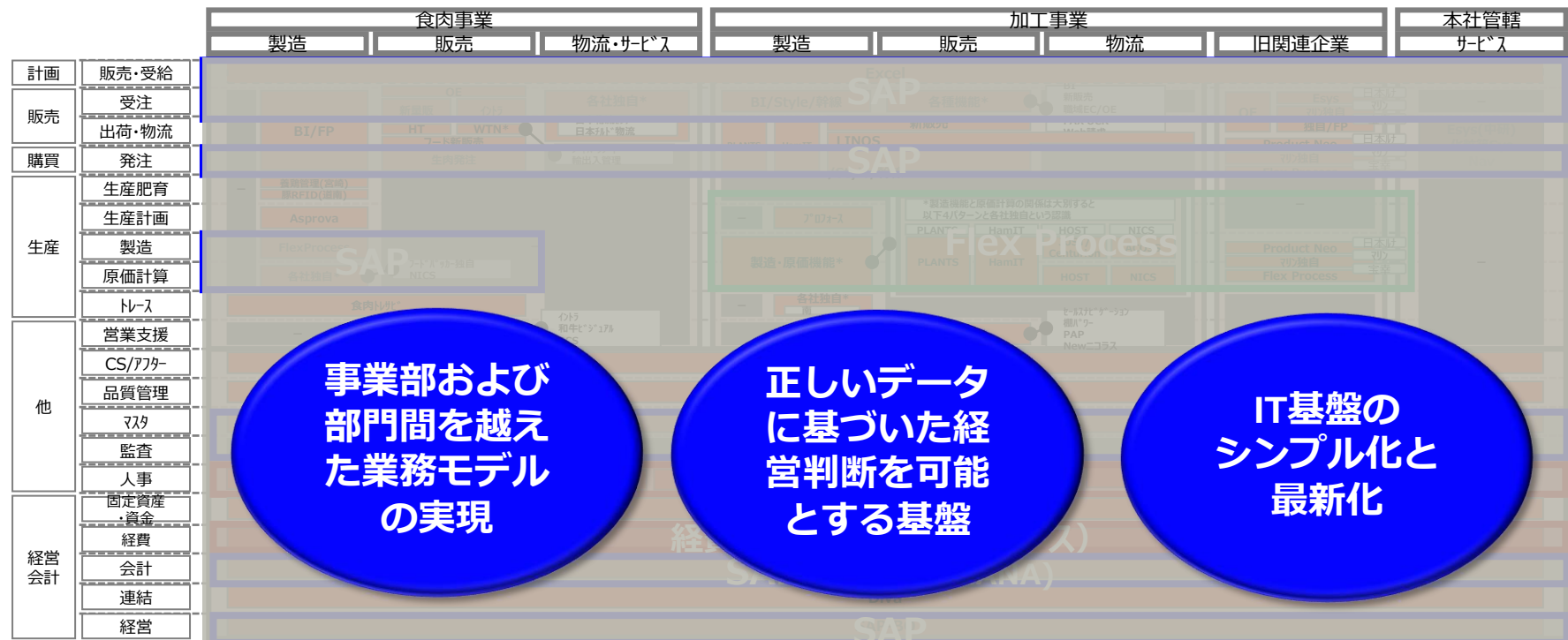
Connect 主要変革ポイント（アプリマップ）（現状）

ニッポンハムグループの業務システムは、会計、品質保証の領域は統一されているが、生産、製造、販売、物流領域のシステムは、各事業最適かつレガシーなシステムで構築されてきた。



Connect 主要変革ポイント（アプリマップ）（変革後）

新たな基幹業務システムは、全体最適を目指し、一部の生産系や人事、品質保証のシステムを除き、SAPをベースに再構築する。



経営管理	・ グループ業績管理・分析の高度化 - 業務機能・商品・取引先別による多軸化 - 月次業績管理・分析の高度化
マスタ管理	・ グループ横断データ分析を可能とする品名・取引先マスタの統制 - 事業特性に応じたグループ共通ルールの策定（品名の管理粒度、共通管理項目） - マスタ統制の組織・プロセス・システム
SCM	・ 生産・在庫の最適化を行う需給調整(加工事業) - 見込みを前提にした需給調整 - 需給組織の立ち上げ ・ 変化・変革に適応するために法人内取引をシンプル化
経理財務	・ 執行業務の標準化・集約化と高付加価値業務への移行 - グループ経理・財務規程の標準化 - 会計・決算業務の集約化・外部化 ・ 経費精算システムの刷新
IT基盤	・ 事業変革、DX推進に追従しやすいクラウドヘシステムを移行 ・ システム基盤の標準化とシステム運用の集約化
海外	・ 内部統制、迅速な経営状況把握を目的とした重点会社へのSAP導入 - 現地システムとのデータ連携 - タイ 3社、デیلیーフーズへのSAP導入検討

2022年

国内全グループ会社の
会計システムを刷新

2023年

加工事業本部
マスタ、販売、購買などの
業務システム再構築

2024年

食肉事業本部
マスタ、販売、購買などの
業務システム再構築



- サプライチェーン内の連携がスムーズ化
- 事業部及び部門間の垣根を超えた事業活動が活性化し
新たなビジネスモデルを構築

3. DX取組み事例のご紹介

AIを活用した加工在庫引当、食肉荷繰りについて

	研究 技術開発	生産 飼育	調達	処理 加工	製造	需給 物流	マーケ 商品開発	コーポ レート・ 全社
	イノベー ション	スマート 畜産	グループ 集中購買	スマートファクトリー		全社横断 最適化	データドリブン 働き方改革	
新たなビジネス の創出 ・業務変革	ビッグデータ、AI / IoT活用							
	スピード化	スマート養豚	自動調達	原料選別・検品自動化		自動倉庫	ID-POS分析	SSC/BPO
	精度向上	スマート養鶏	価格予測	遠隔監視・制御		需給調整	商品開発	品質保証・研究
	官能評価	遠隔制御	集中化	ロボット化・無人化		自動配車	デジタルプラットフォーム 広告 / SNS / POS / CRM	
	新素材開発	ノウハウ標準化	プロセス統合	トレサビリティ		外部連携		
グループ連携・ 事業利益最大化	全社基幹システムの変革・統一【Connect】							
多様な働き方へ の対応	モバイル・クラウド ファースト							
	ネットワーク再構築（モバイル/テレワーク対応）、セキュリティ強化							
	人財育成（ITリテラシー向上、DX人材の育成・確保）							

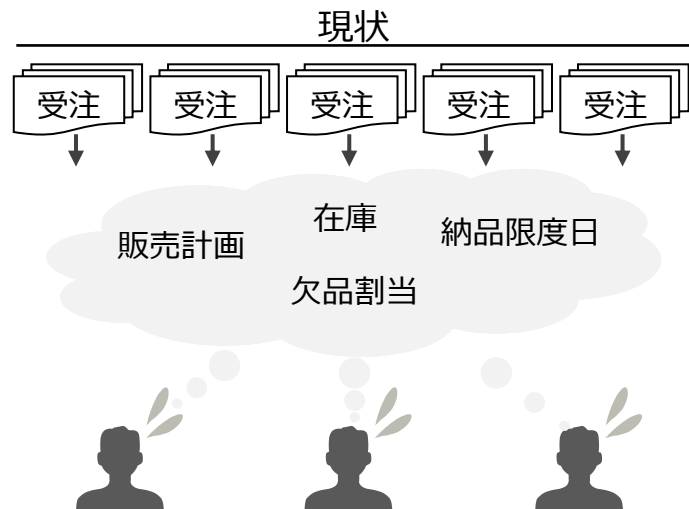
お客様・お取引先

お客様・お取引先

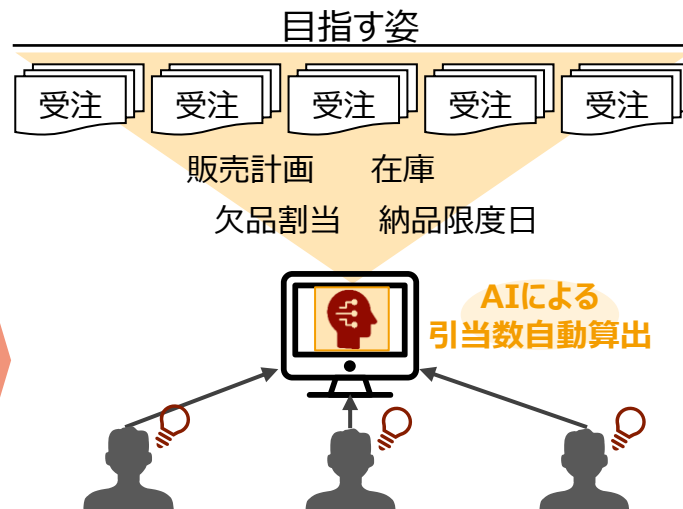
AIを活用した在庫引当（加工事業）

在庫引当の目指す姿

- AIを活用した業務効率化・引当精度の向上・業務標準化の実現を目指す。
引当自動化により創出された時間で付加価値業務に充てる。



- 翌日以降の在庫確保も踏まえた**引当数量に改善余地**
- 引当数量の判断に統一ルールが無く、**各担当者の経験・判断に依存**
- 在庫・受注を目視で確認して引当を調整する為、**マニュアル業務による高負荷**



- 翌日以降の在庫確保も踏まえた**引当数量の推奨値算出**
- 引当数量の判断ルールを統一し、**業務をセンタ共通で平準化**
- 自動で引当パターンを算出し、**マニュアル業務による負荷を軽減**

業務精度向上

業務標準化

業務効率化

PoC（概念実証）
（2021年度上期）

パイロット導入
（2021年度下期）

順次実装・展開
（2022～2023年度）

チャンスロス

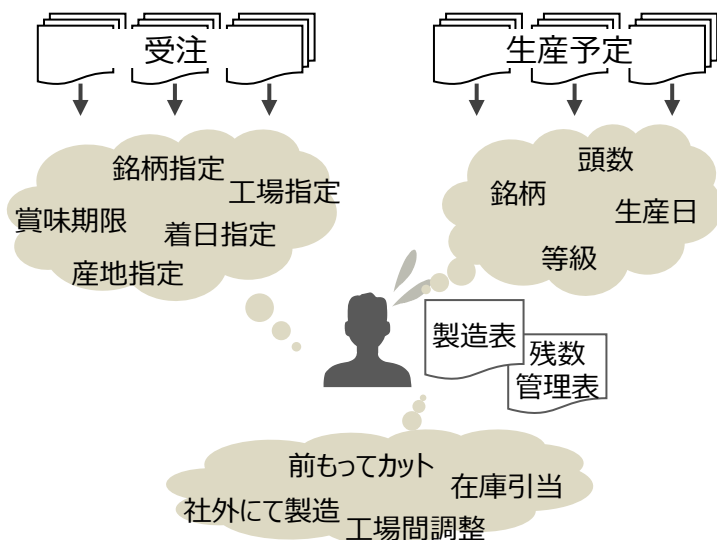
廃棄ロス

AIを活用した食肉の荷繰り（食肉事業）

AI荷繰りの目指す姿

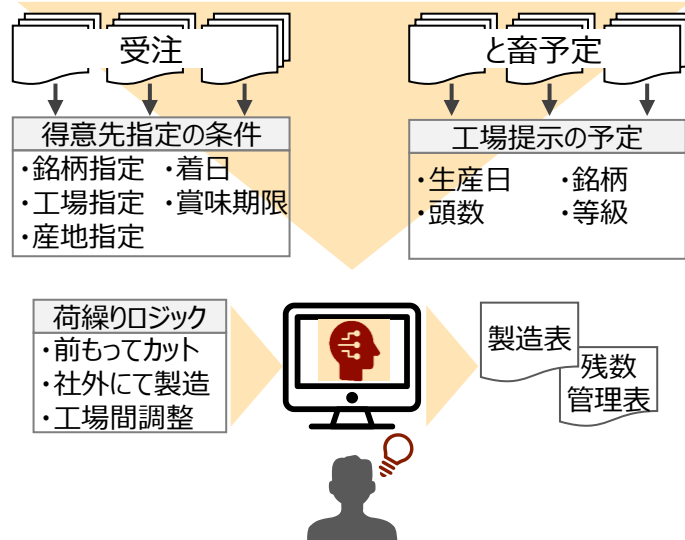
AIを活用した業務効率化・荷繰り精度の向上・業務標準化の実現を目指す。

現状



- 得意先からの指定条件や生産予定を元に、人手で荷繰り業務（製造依頼の作成）を実施

荷繰りAIによる業務



- 事前にAIに組み込んだ**制約条件**や**荷繰りロジック**により、受注情報と生産予定から**自動的**に荷繰りを実施

PoC（概念実証）
（2020年度下期）

パイロット導入
（～2021年度）

順次実装・展開
（2022～2023年度）

業務効率化

直送率向上

業務精度向上

チャンスロス

業務標準化

スマート養豚について

	研究 技術開発	生産 飼育	調達	処理 加工	製造	需給 物流	マーケ 商品開発	コーポ レート・ 全社
	イノベー ション	スマート 畜産	グループ 集中購買	スマートファクトリー		全社横断 最適化	データドリブン 働き方改革	
新たなビジネス の創出 ・業務変革	ビッグデータ、AI / IoT活用							
	スピード化	スマート養豚	自動調達	原料選別・検品自動化		自動倉庫	ID-POS分析	SSC/BPO
	精度向上	スマート養鶏	価格予測	遠隔監視・制御		需給調整	商品開発	品質保証・研究
	官能評価	遠隔制御	集中化	ロボット化・無人化		自動配車	デジタルプラットフォーム 広告 / SNS / POS / CRM	
	新素材開発	ノウハウ標準化	プロセス統合	トレサビリティ		外部連携		
グループ連携・ 事業利益最大化	全社基幹システムの変革・統一【Connect】							
多様な働き方へ の対応	モバイル・クラウド ファースト							
	ネットワーク再構築（モバイル/テレワーク対応）、セキュリティ強化							
	人財育成（ITリテラシー向上、DX人材の育成・確保）							

お客様・お取引先

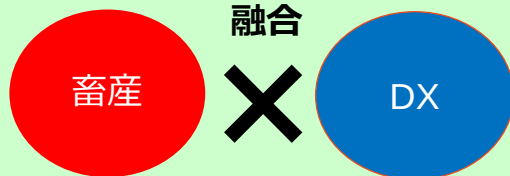
お客様・お取引先

スマート養豚（1）

日本ハムとIT企業との共同開発により**スマート養豚システムを開発**



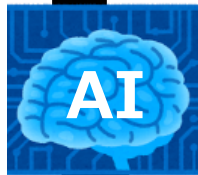
グループ内の農場を
モデル農場として開発



- ・ 無駄をなくして農場の労務軽減
- ・ 自動判定技術で作業の「質」を維持
- ・ 成績向上による**収益性アップ**

カメラ等による
農場の「見える化」

リアルタイム発信



アラート発信

人工知能（AIシステム）
による豚の状態の自動判定



遠隔監視・遠隔診療



無駄のない作業
トラブルへの迅速な対応

**2021年度はAIシステムの開発を完了させ、
農場での実証試験を開始する**

発情検知システム



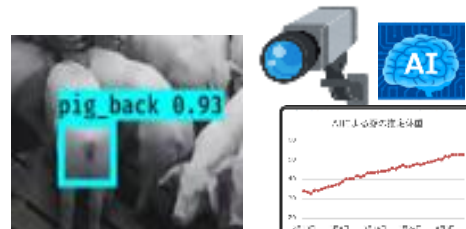
豚の映像から母豚1頭ごとの
発情確率 (%) を表示



- ・ 技術開発完了、特許出願済
- ・ 現在グループ内農場で実証試験を実施中

熟練の作業者の技術をベース
としたAIシステムを開発

体重推定システム



技術開発完了、特許出願済

体調不良検知システム



発情検知機能開発
(～2020年度)

発情検知機能の
実証試験・検証
(～2021年度)

発情検知機能の
実用化・展開
(2022年度～)

※以後、順次機能拡大



たんぱく質を、もっと自由に。

Nipponham Group Vision 2030



Nipponham Group